

[果樹部門]

1. 早生のモモ新品種「さきがけはくとう」の育成

[要約]

果皮が着色しにくくて外観が優れ、糖度が高くて食味が優れる早生のモモ新品種「さきがけはくとう」を育成した。

[担当] 果樹研究室

[連絡先] 電話086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

岡山県で、栽培されているモモの早生品種は果皮着色しやすく外観が劣り、糖度も低い。そこで栽培が容易で、果皮着色しにくく、糖度が高くて食味の優れるモモ新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 赤磐市の岡山県農業総合センター農業試験場（現岡山県農林水産総合センター農業研究所）で、1999年に「大和白桃」に「華清水」を交配して得られた交雑実生個体について、2006年から「岡山もも5号」として選抜を継続し、育成した品種である。
2. 開花期は「はなよめ」とほぼ同じで早く、花粉を有しない。果実の収穫期は7月上旬で、「日川白鳳」より3日程度早く、核割れや生理的落果は少ない（表1）。
3. 果実は210g程度で、果皮の着色は少ない（図1）。果肉は乳白色で溶質、肉質はやや密で軟らかい。糖度は「日川白鳳」より高く、酸味も少ないため、食味は優れる。粘核と離核の中間で、成熟が進むと核と果肉が離れやすくなる（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 栽培地域は、当面、岡山県内に限定する。
2. 花粉を有しないので、「はなよめ」や「ゴールデンピーチ」などの開花期の早い品種の花粉を受粉する必要がある。
3. 花芽が多く、結実も良好なので、摘蕾や摘果を早めに行うと果実肥大は促進されるが、摘果しすぎると、核割れすることがある。
4. 果皮着色は少ないが、斑状着色することがあるので、摘果時に着色果を取り除くようにして、早めに袋を掛ける。
5. 過熟になると、果肉が粉質化し、食味が低下しやすいので、適期に収穫する。

[具体的データ]

表1 「さきがけはくとう」の樹性と結実特性^z

品 種 名	開花盛期 (月・日)	収穫盛期 (月・日)	花粉 有無	果実 の形	核割れ 多少	生理的 落果
さきがけはくとう	4.7	7.3	無	卵	少	微
は な よ め	4.7	6.27	有	円	微	微
日 川 白 鳳	4.10	7.6	有	卵	多	微

^z 育成地（赤磐市）における2007～2011年の平均値

表2 「さきがけはくとう」の果実特性^z

品 種 名	果実重 (g)	糖度 (°Brix)	酸度 (pH)	核の 粘離	果皮 着色	食味 ^y 評価
さきがけはくとう	210	11.7	4.3	半離	微	中中
は な よ め	175	12.1	4.2	粘	少	中下
日 川 白 鳳	251	10.8	4.1	粘	中	下上

^z 育成地（赤磐市）における2007～2011年の平均値（有袋栽培）

^y 食味評価は官能試験における下下～上上の9段階評価



図1 「さきがけはくとう」の果実

左：「はなよめ」 中央：「さきがけはくとう」 右：「日川白鳳」

[その他]

研究課題名：果樹新品種の育成

予算区分：県単

研究期間：1981年度～

研究担当者：日原誠介、藤井雄一郎、笹邊幸男

関連情報等：日原ら(2011)、品種登録出願 第26410号